

1945年6月23日

沖縄戦が終わった・・・日

忘れたいことを話してくれてありがとう

- 平成19年度 文化庁映画賞大賞
＜文化記録映画部門＞
- 2007年 日本ジャーナリスト会議 JCJ特別賞
- 2007年度 キネマ旬報ベスト・テン 第1位 ＜文化映画部門＞
- 2007年度 日本映画ペンクラブ 第1位 ＜文化映画部門＞
- 2007年 高崎映画祭 特別賞
- 2007年 全国映連賞 監督賞
- 2007年 日本映画復興賞 奨励賞



「忘れたいこと」を話してくれてありがとう

歌手 Cocco (毎日新聞「想い事」より)

柴田昌平 監督作品

製作:プロダクション・エイシア 共同製作:財団法人沖縄県女・一高女ひめゆり同窓会 プロデューサー:大兼久由美、小泉修吉
2006年/日本/カラー/DVCAM・16mm/2時間10分/スタンダード 芸術文化振興基金助成事業 文部科学省選定

私の一生の願いです。『ひめゆり』を観てください。

出来れば世界中の人に観てほしいのです。次の世代に伝えてほしい、
現実を感じてほしい。心がここに詰まっているからです。

宮本亜門 (演出家)



出演:ひめゆり学徒の生存者22人 監修:ひめゆり平和祈念資料館 監督:柴田昌平 プロデューサー:大兼久由美、小泉修吉 撮影:澤橋正範、一之瀬正史、川崎哲也、川口慎一郎 音声:吉野奈保子、森長良、山根剛行 題字:財前謙 音響効果:鈴木利之 音楽演奏・編曲:湯尾三
MA:門倉徹 ポスターデザイン:市川千鶴子 イラスト:宮沢かなえ 宣伝配給:富士海 製作:プロダクション・エイシア 共同製作:財団法人沖縄県女・一高女ひめゆり同窓会 2006年/日本/カラー/DVCAM・16mm/2時間10分/スタンダード 芸術文化振興基金助成事業



■自主上映のお問い合わせ

映画『ひめゆり』を観る会
(プロダクション・エイシア内)

TEL 042-497-6975

FAX 042-497-6976

himeyuri@asia-documentary.com

公式ホームページ <http://www.himeyuri.info>

※右記の上映団体は、3月17日現在のリストです。その他の地域での上映については映画『ひめゆり』を観る会までお問い合わせください。
※上映期間が延長になる場合もございますので、上映日程、時間については直接劇場までお問い合わせください。

6月～8月全国特別上映会

映画館	上映期間	上映会場	問い合わせ先	常設	毎月第2・第4土曜 沖縄・沖縄市 くすぬち平和文化館 098-938-4192
市 民 団 体	6月7日～20日	神奈川・横浜市	シネマ・ジャック&ベティ 045-243-9800		
	6月14日～27日	神奈川・川崎市	川崎市アートセンター(新百合ヶ丘) 044-955-0107 *月曜休映		
	6月14日～27日	東京・中野区	ポレポレ東中野 03-3371-0088		
	6月	京都・京都市	京都シネマ 075-353-4723		
	6月	沖縄・那覇市	桜坂劇場 098-860-9555		
	6月21日～27日	山形・山形市	山形フォーラム 023-684-2902(プラットホーム)		
	7月下旬予定	広島・広島市	横川シネマ 082-231-1001		
	7月または8月	群馬・高崎市	シネマテークたかさき 027-325-1744		
	8月	北海道・苫小牧市	シネマ・トラス 0144-37-8182		
	今夏	大阪・大阪市	第七藝術劇場 06-6302-2073		
市 民 団 体	6月1日	新潟・長岡市	市民映画館をつくる会 0258-33-1231		
	6月14日	広島・呉市	呉映画サークル 0823-24-0217		
	6月21日	福島・郡山市	あぶくま農業者大学校(仮) 0247-78-3847(稲福)		
	6月22日	沖縄・うるま市	根っこの会 098-973-1059(照屋 19時以降)		
	6月23日	福岡・福岡市	ドキュメンタリー映画「ひめゆり」上映実行委員会 092-741-7112(九州共同映画社内)		
	7月6日	福岡・春日市	憲法九条の会 春日・大野城 春日:092-584-6355 大野城:092-591-7384		
	7月13日	愛媛・松山市	愛媛ひめゆりの会 089-925-6789(呼:渡邊)		
	7月19日	島根・松江市	「ひめゆり」松江上映実行委員会、松江キネマ倶楽部 090-3638-5700(高嶋)		
	7月27日	香川・高松市	映画の楽校、日本BPW連合香川クラブ 090-3181-4519(湯浅)		
	7月31日	埼玉・さいたま市	映画「ひめゆり」をみる会 048-822-7428		
市 民 団 体	8月1日	石川・金沢市	「ひめゆり」を上映する会 076-296-0245(JO-HOUSE)		
	8月	北海道・室蘭市	ぐりんぴーず 富盛 0143-43-2895		

※6月23日(月)「沖縄慰霊の日」イベント ポレポレ座(東京・中野)にて開催。詳細は映画「ひめゆり」を観る会(042-497-6975)まで。

6月14日[土]▶27日[金]ロードショー

上映時間			
12:30	15:15	17:50	20:25
◆毎週末、トークショーあり			
◆6月23日[月]「沖縄慰霊の日」イベント開催			
詳細は「ひめゆり」ウェブサイト http://www.himeyuri.info をご覧ください。			

JR総武線東中野駅西口改札北側出口より徒歩1分・地下鉄大江戸線東中野駅A1出口より徒歩1分

ポレポレ東中野
TEL 03-3371-0088 <http://www.mmjp.or.jp/pole2/>

特別鑑賞券発売中1200円 当日料金(税込):一般1500円/大学・専門1300円/中高生・シニア1000円
劇場窓口・チケットぴあほかプレイガイドで好評発売中

himeyuri

長編ドキュメンタリー映画
『ひめゆり』

いきる つなぐ いのち

6月～8月全国特別上映会

「おばあちゃんの話聞く機会はいくらでもあったのに、もっと聞きたかったのに他界してしまった」と、事務局の一人が悔しがっていました。記憶は、その人の持つ時間とともにあります。放っておくとその人とともに消えてしまいます。

映画『ひめゆり』に出会って気づいたことです。

6月23日は「沖縄・慰霊の日」です。沖縄戦の組織的な戦闘が終わった日として制定されました。沖縄ではこの日は学校も休校になり、平和を願う強い想いの中、県内各地で慰霊祭が行われます。8月の原爆投下や終戦記念日など夏になると毎年、記憶を絶やさず、つなぐための慰霊の行事が行われます。大昔の話ではなく、60数年前にこの日本で実際に起きた戦争の記憶。しかし、向き合うきっかけもなく日常が通り過ぎていくのも現実です。

「これからは、父の戦争体験に向き合っていきたいと思う」映画を観た方から、こんな言葉を聞きました。それまで避けてきたという家族の記憶。それを受け止める…。

毎年6月から8月にかけて「ひめゆりの記憶」をつなぎ、考えるきっかけにしたいと「いきる・つなぐ・いのち」をテーマに、特別上映会を開催します。

「去年も観たよ」という人がいるかもしれません。「知ってるよ」という人も。

けれど、一人から次の一人へつなげていきたいのです。上映を通し、生き残ってくれた方々への「ありがとう」の気持ちを込めて、初夏から盛夏にかけての日々を共に過ごしたいと思っております。

映画『ひめゆり』を観る会事務局

注) 沖縄慰霊の日とは6月23日と制定されていますが、その後も離島を含む各地で局地的な戦闘が行われ、南西諸島の守備軍代表が降伏文書に調印したのは9月7日でした。



亡き友の遺影と語る元ひめゆり学徒

■映画『ひめゆり』製作意図

この映画を撮り始めたのは、今から14年前に遡ります。人づてに「ひめゆりの人たちが体験をきちんと記録したがついていない」という話を聞きました。「なぜ？」最初、私はびっくりしました。というのも、ひめゆりについての映画やテレビ番組は何度も制作されていたので、今さらなぜなのだろう、と素朴に思ったのです。

しかし実際にお会いしてみると、私がわかったつもりになっていたのは余りに表面的なことにすぎないということに愕然としました。何よりも、

生存者お一人お一人が実に個性的だということに驚きました。戦争体験から受ける印象は悲惨です。しかし、ひめゆりの生存者からはしっかりと生きている強さを感じます。それは彼女たちの根からの明るさ、やさしさ、そして生命への信頼感があるからです。この映画は、今を生きる私たちに多くの示唆と希望を与えるものと信じます。

監督 柴田昌平



「ひめゆり学徒隊」とは？

1945年第2次世界大戦末期、沖縄では住民を巻き込んだ地上戦が展開されました。ひめゆり学徒隊とは、戦場に学徒動員され、負傷兵たちの看護活動にあたった沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等学校の生徒たちのことです。

15歳から19歳の女学生222名が動員されましたが、最後は軍の解散命令により、戦場に放り出され、123人が亡くなりました。あまりにもむごい体験から、生きのびた生徒たちの多くは戦後ずっと沈黙を保っていました。自らの言葉で体験を話すようになったのは戦後40年をすぎてからのことです。13年にわたって彼女たちの膨大な証言を記録し、映画「ひめゆり」としてまとめました。

message

6月23日。何の日かご存知でしょうか。

僕は、8月6日や8月9日、8月15日なら何があった日か知っていましたが、この日が何の日なのか、この映画に関わるまで知りませんでした。恐らく、僕のように知らない人が多いのではないのでしょうか。しかし、この日を大切にしている人達が日本の最南端に沢山いるという事実を知って欲しい、その理由も考えてみて欲しいのです。だから、この日にあわせて、ボレボレ東中野では映画『ひめゆり』を上映したいと思っています。毎年、毎年。「戦争を思い出すのは8月」だけではなくてもいいのではないのでしょうか。

ボレボレ東中野 支配人
大槻貴宏

“次世代に、その次の世代に希望を託す”最も強く感じたおばあ達のメッセージをより広く伝え報いるために『ひめゆり』を再び上映したい。昨年の「長岡アジア映画祭」で上映された際の反響の大きさを目にしたからだが、何よりも平和と命の尊さを教えるこの映画が、今と未来を生きる人々にとってとても重要な映画だと感じる。一度だけの上映は勿体なかった。長岡の地で再び柴田監督と観客の皆さんが『ひめゆり』とともにこの時代に生きる意義を見つめ共有する場にしたい。

市民映画館をつくる会 長岡アジア映画祭
菅野勝一

ひめゆり平和祈念資料館ご紹介

財団法人沖縄県女師・一高女ひめゆり同窓会により建設・運営されている資料館です。ひめゆり学徒隊に関する資料を保管・展示し、戦争の実相を伝えるために1989年6月23日に開館しました。館内ではひめゆり学徒生存者が、来館者に自らの戦争体験を語っています。また後継者の育成にも取り組んでいます。※証言が聞ける時間帯は事前にお問い合わせ下さい。



■開館時間 午前9時～午後5時25分(入館は5時まで)
■お問い合わせ
沖縄県糸満市宇伊原671-1 Tel 098-997-2100
E-mail: himeyuri1@himeyuri.or.jp

ひめゆり & Cocco 終戦記念日を共に



2007年8月15日・16日、終戦記念日に映画『ひめゆり』を観て語る、特別上映会が東京で開催されました。ひめゆり学徒生存者の島袋淑子さん、宮城喜久子さん、沖縄出身の歌手Coccoさんも参加。若い世代900人が集った上映会のトークよりご紹介します。

写真右から Coccoさん、島袋さん、宮城さん、柴田監督

島袋: 私たちは資料館を建てる前は、戦後40年近く語ってきませんでした。それくらい10代で亡くなった学友たちの死はとても重たいのです。でも、40年経った頃遺骨収集を行い、たくさんの遺骨を拾いました。友達の手で壊れた形を失った櫛や、筆箱や弁当箱を泥の中から拾い上げたときに、「ごめんなさい。もっと早く来てあげればよかった。ごめんなさい。」って言いながら、泥まみれになりながらそれを拾ったときからです。「この事を話すのは私たちなんだ」と。それがきっかけで証言をし、資料館を作る仕事に入っただけです。

監督: 「戦争がテーマの映画は重たいし、怖そう。だから観に行けない」という若い人も多いと聞いています。

Cocco: わからなくても、今、「怖い」と思っても、今、「避けよう」と思っても…。今よ、今。若い人が知るべきなわけ。ピンと来ないからといって罪悪感を感じないで欲しい。知ることで、いつか、何かがつながって理解できる時がくるかもしれない。みんなの友達も、まだ、「怖い」と言ってるかもしれないけど、それは何十年もしゃべれないで、やっとしゃべれるようになってくれたひめゆりの人たちに対して、とっても失礼だと思うわけ。しゃべる勇気に比べたら、観る勇気なんて鼻くそなわけさ。それをみんなにわかって欲しい。どれだけの想いでしゃべってくれているのか。どれだけの想いでここまで来てくれたかということ。こうやってお二人が来てくれたことに、Coccoも含めてみんなで感謝したいと思う。



宮城: 若いみなさんが、体験はしなくても映画を観て戦争の恐ろしさを感じてくださって、ありがとうございます。皆さん、命を大切にしてください。人間の一番の全ての原点は命です。でも、一つだけ条件があります。平和じゃないと生きられないのです。これが私たちの願いです。